

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470800287		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホームしらゆり竹田		
所在地	竹田市大字竹田町279-1		
自己評価作成日	令和2年2月27日	評価結果市町村受理日	令和2年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和2年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「馴染みのある土地で穏やかに暮らしたい」このような利用者の思いを尊重し、一人ひとりが自分らしさを失うことなく安心して生活できるよう、日々の関わりの中で利用者をサポートしながら共に笑ったり、共に喜んだり、共に悩んだり、信頼関係を築きながら家族のように過ごせる時間を大切にしています。また、城下町竹田ならではの地域行事への参加、敬老会への近隣高齢者の招待、行きつけの美容室や買い物に出かけるなど地域とのつながりが途切れることがないように支援を行っています。利用者の尊厳を損なうことなく生きがいを持って健やかに生活していただくためにはどのような支援が求められるのか、職員自身も介護に関する知識や技術の習得に向けて各種研修会に積極的に参加し、より良い介護を提供できるようスキルアップを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・竹田の市街地に位置し地域とのつながりが多く、行事での交流が盛んである。
 ・3食とも施設内で作られており、調理する音を聞き、匂いが漂う落ち着いた雰囲気生活を送られている。
 ・職員間や職員と利用者との関係が良く、利用者は安心して暮らせている。
 ・近くには24時間対応の協力病院があり医療面でも安心である。
 ・日常の支援について振り返りを行いマンネリ化しないように心がけており、笑顔の絶えない施設を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の支援が惰性的に流され利用者に対する尊敬・感謝の念を忘れることがないように運営理念を施設内に掲示し、朝のミーティングでも自身の支援が理念に基づいて実践できているのか顧みる機会を設けている。	朝のミーティングや職員会議で日常の業務を振り返り反省している。施設側の都合にならず利用者本位の支援に心掛けて、感謝の気持ちを持ち続けるよう確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会に近隣高齢者を招待したり、地域行事への参加、あるいは近所の鮮魚店からの食材仕入れ、行きつけの美容室に通ったりと地域のみなさんとの交流を続けている。	自治会に入っており、地域の祭りでは施設の玄関まで寄ってもらったり、敬老会よりお祝いのお菓子が届いている。施設の敬老会には地域の人を招待するなど交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣高齢者への声掛け、認知症高齢者を抱える家族の相談対応など、事業所として積み上げてきた経験や実績を生かして貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況や、行事・事業の実施報告のほか職員が受講した研修内容の報告等を行い、それに対する運営推進委員からの意見、アドバイスを日頃の支援に活かすようにしている。	推進会議には家族、自治会、老人会、民生委員、消防団員や市などの参加がある。行事や利用者の様子を報告している。ノーリフティングケアについての研修報告には、参加者から機械で扱われるのは嫌だという意見が出たが、利点を説明した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者福祉課や地域包括支援センターの担当者には運営推進会議に出席していただき、施設の現状や課題を報告しながら適切な助言をいただいている。また、市役所を訪問した際にも、必要に応じて情報交換などを行っている。	市役所へ行く機会は多く、何かあればすぐに相談しておりアドバイスを受けている。メールで情報をもったり研修の案内も受けている。市にはマスクの在庫があり、要望すればすぐに配布可能と言われた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議やミーティング等で身体拘束の排除について全職員意思統一を図っているが、具体的な禁止行為について正しく理解できているかは疑問が残るため、今後学習や研修の機会を設けて身体拘束についての理解を深めていきたい。	言葉による虐待など、研修により確認し日々のケアに活かしている。転倒予防のため光センサーを家族の了解のもと使用している。玄関は日中は施錠していない。出て行こうとする利用者には声を掛けて見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、いかなる場合でも身体的、精神的虐待がないよう全職員で意思統一を図っているが、まだ学習機会としては不十分と思われるため、今後は計画的に学習する機会を設けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	小規模事業所連絡協議会主催の権利擁護研修参加や、現在成年後見制度を利用している利用者があることから、必要に応じて後見人にアドバイスや指導等を仰ぐようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族が契約内容や施設の運営方針について充分納得してもらえよう説明し、本人や家族の意向も尋ねながら入居に際してできるだけ不安を抱くことがないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しているが、投書される方がいないため、利用者との日々の関わりの中から思いや要望を聞き出す工夫をしたり、家族の面会時には近況報告を行うなどコミュニケーションの機会を設けている。	レクリエーションの時などに雑談しながら利用者の思いを聞いている。家族からは面会の時に居室で話を聞いている。要望があれば直ぐに対応している。家族会への参加が少ないので会のあり方を考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて運営に関する意見や提案を収集し、それを管理者判断で実施(実現)可能と判断すればすぐに実行し、管理者判断の範疇を超える部分については、代表者へ相談し可能な範囲で運営に反映させている。	日常的にその都度聞いており管理者の判断で出来る事は直ぐに取り入れている。出来ないことは理事長に相談している。支援の方法や有給休暇を取りやすいように配慮するなど働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや向上心を持って働けるよう勤務状況、実績に応じた賞与への反映、研修受講者への手当支給、また、有給休暇や指定休日取得など働きやすい環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価表にて自身の力量を評価してもらいながら、個別面談にてスキルアップに向けてどのような取り組みが必要かを話し合うようにしている。また、市や各団体が開催する研修会にも積極的に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模事業所連携事業に加入しており、他事業所との意見交流会や合同研修会を開催し、サービスの質向上に向けた取り組みを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境変化による戸惑いや不安を最小限に抑えるべく、本人の発する言葉や表情をしっかり観察し、どのような不安があるのか、何を求めているのかなどを探りながら、早く施設生活に馴染んでもらえるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の抱える不安や課題、要望などを充分ヒアリングし、安心して施設での生活を送ってもらえるよう支援内容を具体表示しながら不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設サービス以外に必要と思われる支援を、本人・家族の要望、あるいはケアマネジャーの意見を聞きながら検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をする側とされる側の関係が一方的になることがないように、利用者と一緒にレクや会話を楽しんだり、ひとつの作業を協働で取り組むなど、共に同じ時間を過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の日頃の生活の様子や健康状態(受診内容等)を報告し、これからの支援方法を家族と話し合いながらケアプランに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもとより、友人知人など馴染みの関係が途切れることがないように、面会での来所を奨励している。また、昔よく参拝していた神社などへ出かけるなど、馴染みの場所への外出支援も行っている。	自宅に連れて帰ったり、馴染みの美容院に行くなどこれまで慣れ親しんできた場所との関係が継続できるよう支援に努めている。定期的に訪問美容があり、新しい馴染みとなっている。知人友人も訪れてくる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や利用者間の相性等を考慮しながら席の配置換えをしたり、利用者みんなで楽しめるような催し事を行うなど、一人ひとりが孤立することがないように配慮している。また、利用者同士で手助けしあう姿も見られ、職員はそれを温かく見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去に伴い家族へあらゆる情報提供を行いながら転居先の施設(入院の場合は病院)探しのフォローをしている。退去後も近況報告を受けたり相談対応を行うなど、すぐに関係を断ち切ることがないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、本人の発した言葉や行動から何を望んでいるのか思いを汲み取るよう努めており、それを実現するにはどのような方法があるのか、どこまで実現可能なのかを検討するようにしている。	日々話をする中で、したい事行きたい所など希望を聞いている。入居時に生活歴などを把握して、新しい情報はその都度ケース記録に記入し職員みんなで共有している。言葉に出せない人には色々投げかけて意見を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、関係者などから可能な限り生活歴に関する情報を収集し、それを根拠として本人が施設で少しでも自分らしく生活するためにどのような支援が必要なのかを探るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解すると同時に、ADL状況の推移、表情の変化などを観察しながら、必要に応じて職員ミーティングなどで情報共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が抱える課題がどの程度解決されたのか、新たな課題はないかなどモニタリングにてケアマネを含めた全職員で話し合い、本人・家族の意向も取り入れながら介護計画を作成している。	利用者それぞれの担当者がモニタリングをして、それを基に職員会議で全員で協議している。状態が変化した場合その都度話し合いをしながらプランの変更をしている。家族からは面会時に意見を聞いて本人本位のプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人別ケース記録に日々の様子を記録し、利用者の心身状態の変化、訴えた言葉や行動、それに対する職員の対応と結果が情報共有できるようミーティングや会議で話し合い、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や催事出席の同行支援、その他必要に応じた支援が柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	数多くの地域行事への参加、定期的開催される多世代交流サロンへの通所、ギター演奏ボランティアの招待などを通して、利用者が心身ともに豊かに過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月2回の往診時に利用者の心身状態の変化を報告し、適切な治療や処方を受けられるようにしている。また、緊急時にも24時間体制で相談や訪問診療を受けられるよう体制を整えている。	入居前までのかかりつけ医をそのまま利用することができる。月2回協力医の往診があり特変時でも24時間対応してもらえる。医療との連携が取られており安心である。職員が受診に同行し結果を家族に報告している。訪問歯科も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から利用者の心身状態の観察を充分に行っており、変化があれば協力医院の看護師にいつでも相談でき、適切な指導や受診を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、治療方針、経過状況等を家族、病院、施設の三者間で情報共有しながら、利用者が早期退院に向けて安心して治療できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重篤化した場合や終末期を迎えた場合に本人・家族はどこでどのように暮らしたいのか、どこまでの治療を希望するかをヒアリングし、意思確認書をもって方針を共有している。	入居時に重度化した場合の入院や入所の希望を聞いて本人・家族より確認を取っている。状態が変わればその都度聞いている。看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて開催される救急救命講習に定期的に参加し、急変時や事故発生時に必要な処置や対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署の指導のもと災害を想定した避難訓練や通報訓練を実施している。また、職員連絡網を作成し、災害時には全職員が速やかに避難活動に参加できるように体制を整えている。	毎年消防署立ち合いと施設独自の避難訓練を行っている。火災や地震を想定して推進委員や利用者も一緒に訓練に参加している。備蓄は倉庫に3日以上は常に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損なうことがないよう、指導的な言葉遣いや諭すような話し方はせず、柔らかい口調で話しかけ利用者の言葉にもしっかり耳を傾けるようにしている。また、利用者のプライバシーを傷つけるような言葉を発しないよう心がけている。	尊厳の気持ちを持って、指導的な言葉にならないよう気を付け、ミーティング等で反省している。排泄の声掛けについては常に意識をしてプライドを傷つけないように心掛けている。人権擁護の研修を受けており、全職員で意識付けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員の懇談等を通じて、食べたいもの、行きたいところ、会いたい人、職員にして欲しいことなど、利用者が意思表示しやすいように働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、施設側の都合で生活ペースを支配することがないように配慮し、利用者のやりたいこと、やりたくないこと、あるいは時間的な都合など、利用者のペースを尊重するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお気に入りの服や着慣れた服をいつでも自由に着れるよう配慮し、洗顔や整髪なども利用者の力に応じて適切な支援を行っている。また、行きつけの美容院への同行支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が普段過ごしているホールと調理場が同じ空間の中にあり、匂いや音など五感で料理の楽しみを感じてもらっている。また、行事ごとに巻きずしやちらしずしなどを作り、メニューがマンネリ化しないようにしている。	3食施設内で作られており、出来る事を利用者には手伝ってもらい楽しい食事となっている。誕生会には特別メニューとプレゼントがあり喜ばれている。食べたいものがあれば行事の時に反映させている。外出時に外で食事を楽しむ事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間単位で肉、魚、野菜などの栄養バランスを考えたメニューを作り、利用者毎の好みや口腔、嚥下状態に合わせた食事形態で提供するようにしている。また、水分摂取量が不足しないように、お茶以外にも飲みやすい飲料を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに職員が立ち会い利用者の自立度に応じて、個々に合わせた適切な支援を行っている。また、職員も口腔ケアの重要性を認識するために、口腔ケア関係の研修会に参加し、知識の習得に努めている。		

事業者名:グループホームしらゆり竹田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄記録により個々の排泄リズムを把握し、適宜トイレ誘導の声掛けを行い排泄の失敗を減らすようにしている。	全員トイレ使用である。排泄パターンを把握しており時間を見たり、利用者の様子を見て声掛けをしてトイレ誘導を行っている。夜間は起きてきた人にはトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操や食前体操時に、便秘予防の体操を取り入れたり、水分摂取が不足気味な利用者には飲みやすい飲料を提供するなど、薬だけに頼らない便秘予防の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間について特別に利用者からの希望がないため予め決まった日時に入浴支援を行っているが、今後は入浴に関する利用者の要望や思いの把握に努め、柔軟に対応していく必要がある。	週2回の入浴である。入浴を拒否する時は時間を置いたり、次の日に変えるなど利用者の気持ちに沿った支援が行われている。浴室や脱衣場にはヒーターが置かれており、ヒートショックにならないよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの就寝・起床時間、昼寝の有無、睡眠状態の把握に努めると同時に、居室の温度調整、布団調節などを行い、快適に休んでもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の説明書をファイルにまとめており、職員はいつでも薬の内容を把握できるようにしている。また、新しい薬が処方された場合は、その効果や副作用についてどのような変化があるのか職員ミーティング等によって情報共有し、担当医へ報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から、本人の好きだったもの(こと)、得意だったことなどを把握し、利用者個々の力に合わせたレクの提供をしたり、調理やごみ捨てなどの手伝いをお願いするなど、利用者が喜びや生きがいを感じてもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気候にもよるが、外出や散歩を希望する利用者には職員が付き添い自由に外出できるようにしている。また、花見やバス旅行、地区行事の見学など多くの外出行事を設け、日常とは違った喜びや楽しみを感じてもらおうようにしている。	年2回、バスを借りて遠出の旅をしている。阿蘇や長湯温泉に出かけた。日常的に施設の周りを散歩したり、外にイスやテーブルを出してボールで遊んだり、座ってなごんだりしている。家族と外出し食事をして楽しんで帰って来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で金銭管理をしている利用者はいないが、今後希望する利用者がいれば、買い物支援や金銭の出納管理等の支援を行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら手紙を書いたり電話をかけるなどの申し出は殆どないが、利用者が希望すれば、いつでも支援できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者に混乱を与えることがないようシンプルな作りになっており、ホール内に季節の花を飾ったり、季節ごと、行事ごとの装飾を施すなど工夫をしている。	ホールにはソファが置かれ、ゆっくりテレビを見ることができ、利用者同士くつろげるように配慮されている。行事の写真や広報紙が飾られ利用者の和やかな様子が伺われる。ホール、トイレや浴室などの掃除が行き届いており清潔さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の広さが十分とは言えず、利用者が気ままに過ごせる空間を確保できていないため、現在、施設の建て増し工事を行い、利用者の活動スペースを広げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、利用者が使い慣れた物や、馴染みのある物など自由に持ち込めることを説明し、利用者の好みに応じてテレビを設置したり、写真を飾ったり自分だけの空間として自由に利用できるようにしている。	これまで家で使っていた小物や家具を持ちこんでいる。家族の写真や仏壇などを置き、以前と変わらないような雰囲気を作り出している。各部屋ともその人らしい部屋作り心掛け、レイアウトに工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の構造上利用者に多少窮屈な思いをさせているが、居室からホール、トイレなどの共用部分にかけて、利用者が場所の認識や移動に支障がないようにしている。		